

摩天楼のハヤブサ

三、四十年も昔のことになるが、八棟ほどの高層ビルが林立する新宿街をテリトリーにするハヤブサ一家があつて、その高層ビルの一棟にあつた僕の職場から彼らの様子が一望できた。

国際電々ビルの最上層部外壁のわずかな張出しを基地にして、彼らは遙か下方でうごめく土鳩などを狙つて餌にしていた。

一家は親父と女房と子供の三羽で、それぞれ電助、お電、電卓（デンタク）と適当に名づけて観察、というより羨望の眼差しで見入つていたものだ。

なぜ羨望かというと、悠々と飛翔する彼らの高度と高層階にいる自分の位置が同じ高さにあるせいで、ビルの合間を縫つてゆく彼らに目線を送る内、彼らハヤブサに感情移入してか、林立する高層ビルの空間を自分自身が飛んでいる気分浸れた。

そしてその空間は高層ビル群ならぬ岩峰を囲む大海原と天空が織りなす壮大な大自然のように感じたのである。

今だかつて味わつたことのない不思議な錯覚で見とれていたのがあつた。

